

[SPI Japan2012]

地域コミュニティで  
繋がる広がるプロセス改善

ソニーイーエムシーエス(株) 湖西サイト 勝又 淳

# 自己紹介

名前：勝又 淳（かつまた あつし）

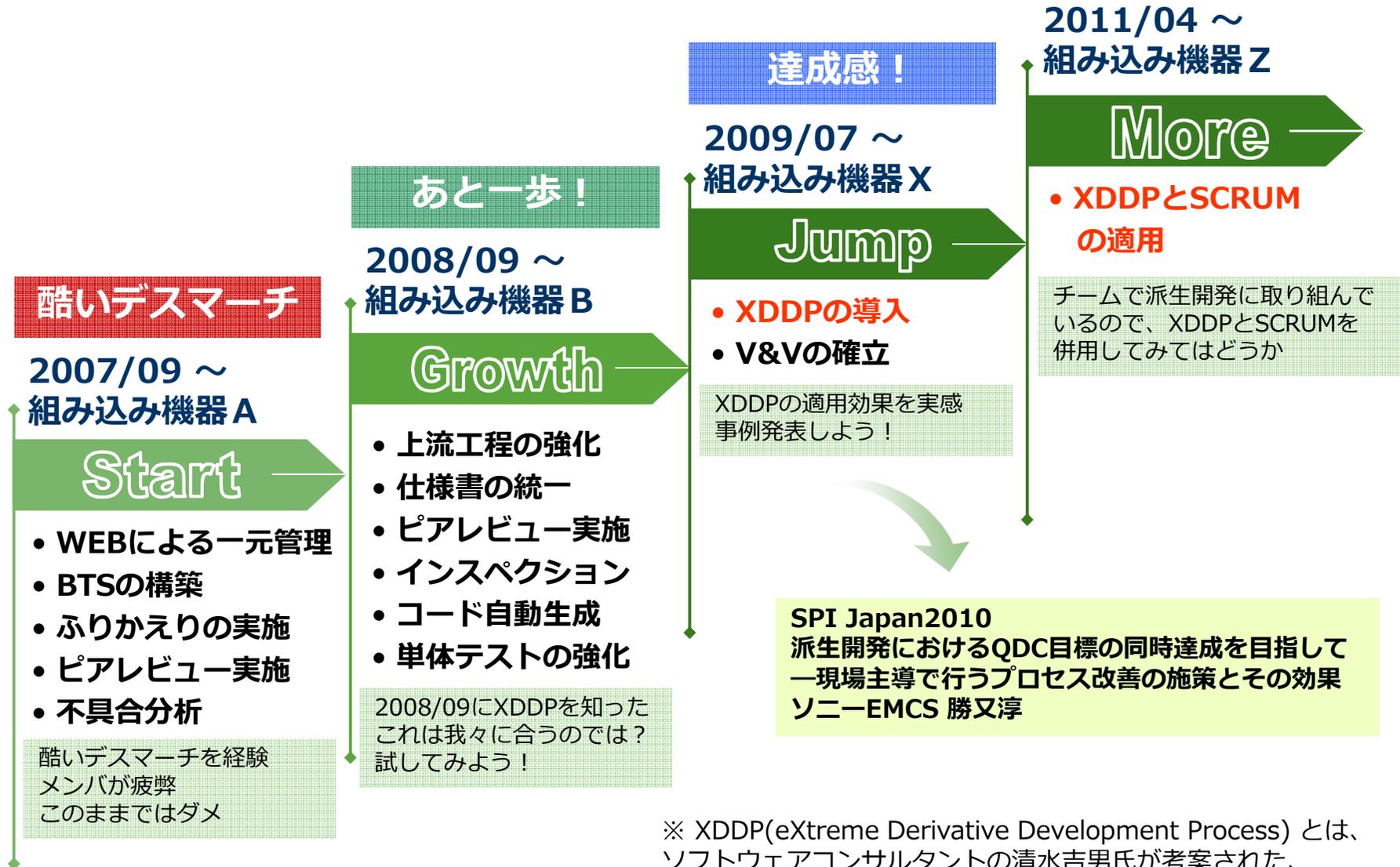
所属：ソニーイーエムシーエス(株) 湖西サイト

設計第2部門 設計1部

職務：業務用放送機器ソフトウェア設計リーダー



# 改善活動の歩み



※ XDDP(eXtreme Derivative Development Process) とは、ソフトウェアコンサルタントの清水吉男氏が考案された、「派生開発に特化した合理化された開発プロセス」である。

# 東海ソフトウェア開発プロセス研究会との接点



うーん、  
ソフトウェア設計プロセスに関して話をしたいけど、  
社内で話をすると意見が偏りがちなあ。

かといって、本社圏に行くのもお金かかるし…  
近くに相談できる同志が居ないかなあ



東海地方から  
各種シンポジウムやカンファレンスに  
参加（発表）している人に声をかけてみました！

どこも同じ状況…

＜社外発表に参加する人の特徴＞

- ・ 問題意識が高い
- ・ モチベーションが高い
- ・ 同じ東海地区（東海道沿い）

じゃあ、東海地区にソフトウェア開発に  
関するコミュニティをつくらう！

## 良かったこと① 知見が広がった



XDDPって面白そうだけど、  
上手くいくか心配だなあ。  
近くに詳しい人もいないし…

東海ソフトウェア開発プロセス研究会で  
XDDPに関する知見を深めよう！



へえ、D社では、  
このようにやってるんだ！  
ぜひ、取り入れてみよう！

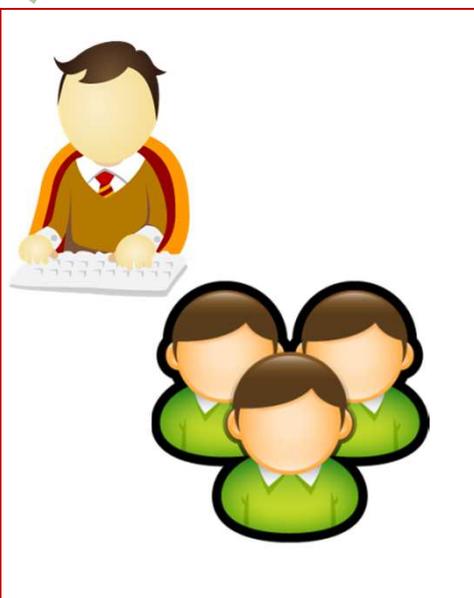
## 良かったこと② 多角視点での意見交換

XDDPやSCRUMを導入して  
プロセス改善効果があったぞ！

よし，社外発表してみよう。  
でも，本当にこの内容で大丈夫かなあ。



東海ソフトウェア開発プロセス研究会で  
レビューしてもらおう！



そうか，こういう視点で  
考えることもできるのか！

新たな刺激を受けたぞ！



# 良かったこと③ 社内へのフィードバック



東プロでアドバイスしてもらった内容を実際の開発プロジェクトにフィードバック

**[工夫点①]**  
 ハードウェアに影響のある変更要求のみを抜粋してXDDPを適用 (Phase\_1)  
 課題 1 に対して  
 終盤でのハードウェア変更リスクを回避

**[工夫点②]**  
 ドキュメントを動くモジュールと見立てて #01よりSCRUMを開始 (スプリント0)  
 課題 2 に対して  
 SCRUMの理解度を深める, リズムを刻む

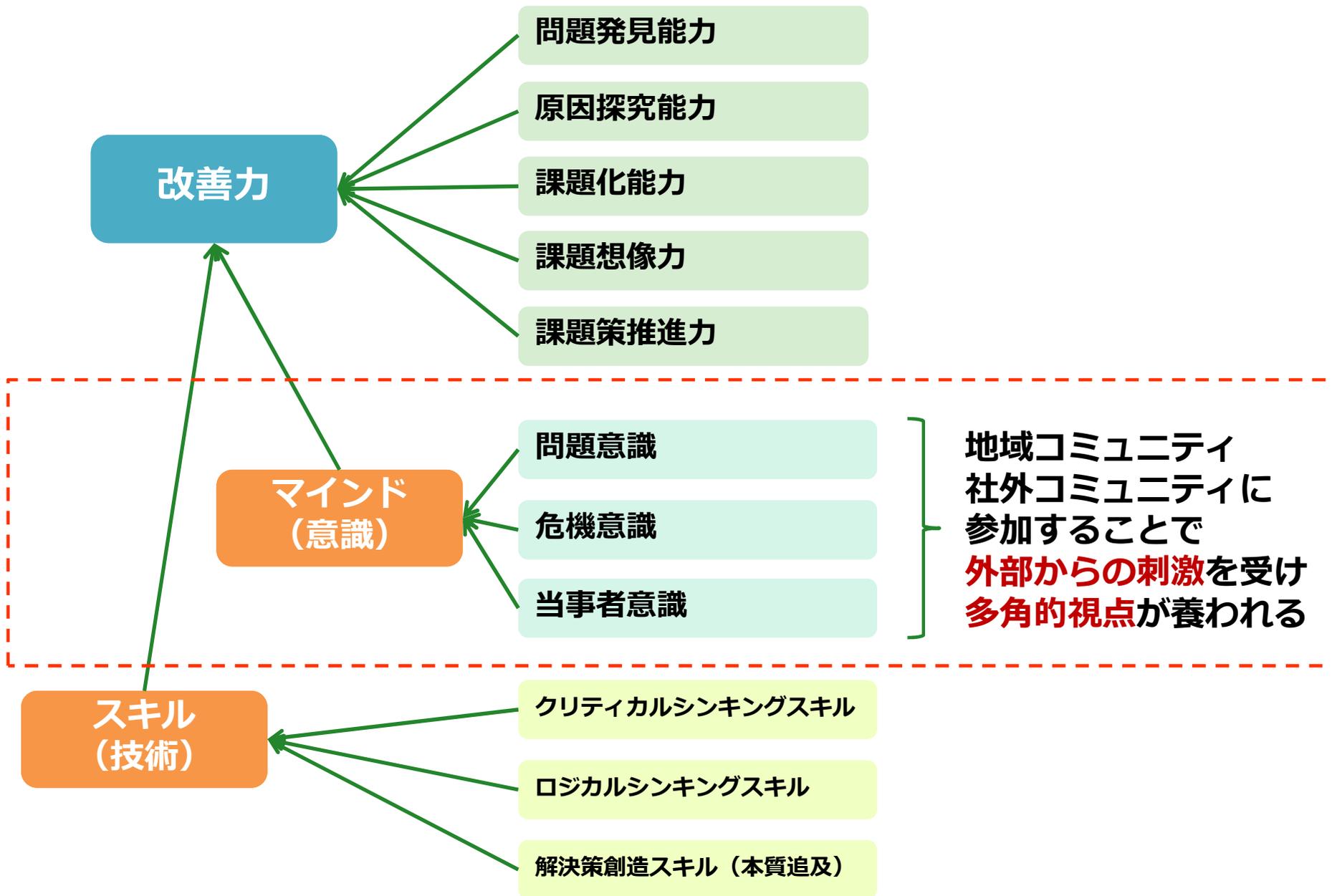
**[工夫点③]**  
 Phase\_3では主に機能追加 終盤は1sprint=1iteration  
 課題 3 に対して  
 突発的な要求に応えるため  
 ・デモンストレーション要求  
 ・製造テストラン要求

非常に良いQCD改善効果を上げることができた

結果を出し続ければ、社外活動は認められる。

項目	改善前 XDDP/SCRUM未適用	今回 XDDP/SCRUM適用	改善効果
概要	[案件] 業務用組み込み機器の派生モデル開発 [期間] 2008/09 ~ 2009/05 (約10ヶ月) [人数] 約12名 (ソフトウェア5名) [要求] 約50件 [母体] 約650KLOC	[案件] 業務用組み込み機器の派生モデル開発 [期間] 2011/04 ~ 2012/03 (約1年) [人数] 約15名 (ソフトウェア5名) [要求] 約70件 [母体] 約500KLOC	---
Q QA不具合指摘件数※1	9件	0件	大幅改善
C ソフトウェア生産性※2	37.4 LOC/h	150.3 LOC/h	大幅up
D 出荷遅延日数※3	0日	0日	遅延無し

# 意識向上に効果的



プロセスは**競争**するものではない！  
プロセスは**共創**したほうが「いいね！」

ソフトウェアテクニカルな部分は  
競争すべきところだけど  
仕組みや考え方などプロセス面は  
みんなで意見出し合って  
みんなが幸せになるようにしたいね！

それが同じ地区だと話が合いやすいし  
更に「いいね！」

